

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



令和8年3月



国土交通省

【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省共生社会政策課 TEL：03-5253-8111（代）
この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。



国土交通省

目次

プログラム

令和8年3月19日(木)

プログラム	2
国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
講評	4
秋山 哲男 委員 (中央大学 研究開発機構教授)	
高橋 儀平 委員 (東洋大学 名誉教授)	
新田 保次 委員 (大阪大学 名誉教授)	
河野 康子 委員 (一般財団法人 日本消費者協会 理事)	
受賞者事例報告	
・設計段階から障害当事者の意見を踏まえた新型特急車両の開発 (西日本旅客鉄道株式会社)	5
・多様な当事者と空港職員による建設的対話から成し遂げた 関西エアポートのバリアフリー化 (関西エアポート株式会社)	7
推薦のあった優良事例の紹介	
・福祉教育と福祉車両の現場を紡ぐ ウエイズトヨタ社員の持続的な挑戦 (ウエイズトヨタ神奈川株式会社)	10
選考委員紹介	
・選考委員より	11

● 選考委員からの講評

中央大学 研究開発機構教授	秋山 哲男 氏
大阪大学 名誉教授	新田 保次 氏
東洋大学 名誉教授	高橋 儀平 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

西日本旅客鉄道株式会社

【設計段階から障害当事者の意見を踏まえた新型特急車両の開発】

特急「やくも」の新型車両の開発にあたり、設計段階から障害をお持ちの方との意見交換を丁寧に行い、細部にわたりバリアフリーに配慮した車両を設計した。また、運行開始前にはバリアフリー体験会を開催するなど障害当事者から意見を伺う評価の機会を設けた。

関西エアポート株式会社

【多様な当事者と空港職員による建設的対話から成し遂げた関西エアポートのバリアフリー化】

関西エアポートでは、障害当事者等と対話しやすい雰囲気作りによって距離を縮めることにより、障害者等の要望・課題を一緒に考え、誰でも使いやすい施設作りに反映した。また、車椅子利用者だけでなく、聴覚障害者の方等多様な意見を取り入れ工夫した。

● 表彰状授与式

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第19回となる今回も、推薦された取組の中で特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学	研究開発機構教授
高橋 儀平	東洋大学	名誉教授
新田 保次	大阪大学	名誉教授
河野 康子	一般財団法人	日本消費者協会 理事

第19回受賞者の決定

12候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、2件の受賞者を決定しました。

第19回となる今年度の表彰においては、全国各地から12件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全12件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道・駅・観光施設・スポーツ施設といった公共交通や建築物等についてバリアフリー化を進める取組みが見られるほか、ユニバーサルツーリズムへの取組など、ソフト面のバリアフリー化を進める取組みも見られます。

また、公共交通機関におけるドライバーへの、車いすの取扱いや障がい者とのコミュニケーションに係る講習・接遇改善のための研修など、「心のバリアフリー」に資する取組みもみられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「西日本旅客鉄道株式会社」は、特急「やくも」の新型車両の開発にあたり、設計段階から障害をお持ちの方との意見交換を丁寧に行い、また、運航開始前にも、評価の機会を設けて、より障害当事者の意見を取り入れる改良を重ねて、先進的なバリアフリー新型車両の開発を行った点を評価し表彰することとしました。

「関西エアポート株式会社」は、空港の改修において、障害当事者等と対話しやすい雰囲気を作り、多様な当事者からの意見を聞く場を何度も設けることで、類似事例と異なる整備の工夫や改善点を生み出した点を高く評価し表彰することとしました。

事例紹介で取り上げた、「ウエイズトヨタ神奈川株式会社」は、福祉教育においては、毎年継続して工夫を凝らした活動してきたこと、ユニバーサルデザインタクシーに係る研修を多くのタクシー会社に出向いて研修を行っていることと、そのスタッフの努力と熱意を大変評価しており、今後さらにタクシー運転者のマナーが向上することを期待しています。

今回ご推薦いただいたもののなかには、新規性が高く、困難を乗り越えながら、ベストを尽くしたものの、まだ、発展の途中ということで、評価を見送った案件もございました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>

西日本旅客鉄道株式会社

設計段階から障害当事者の意見を踏まえた新型特急車両の開発

講評

特急やくも新型車両は、2024年6月に全44車両を新型に入れ替え導入された。この新型車両においては、設計段階から障害当事者の意見を踏まえて、丁寧な整備がなされている。具体的には、車椅子スペースのある車両の乗降口では、整備目標を上回る有効幅が確保され、出入り口付近での電動車いすの回転スペースも確保されている。さらに、トイレでのペーパーホルダーの両側設置やドアの開閉ボタンの視認性向上、カムダウン機能を備えた空間確保など、ガイドラインの範囲にとどまらないきめ細かな改良が行われている。また、新型車両導入前に体験会を開催し、障害当事者から幅広く意見をまとめている。これより、障害当事者の意見を丁寧に取り入れ、先進的なバリアフリー新型車両の開発を行った点を高く評価し、国土交通大臣表彰にふさわしいものとして認められる。

受賞者の取組み

<取組みの概要>

特急「やくも」の新型車両の開発にあたり、設計段階から障害をお持ちの方との意見交換を丁寧に行い、細部にわたりバリアフリーに配慮した車両を設計した。また、運行開始前にはバリアフリー体験会を開催するなど障害当事者から意見を伺う評価の機会を設けている。

●計画段階からの当事者参画

特急「やくも」の開発にあたっては計画段階から、特例子会社「JR西日本あいウィル」の協力を得て、障害当事者の意見や要望を設計に反映するとともに、詳細な仕様を決める際も要求を満たしているかを確認するなど丁寧な対応をしている。

また、運行開始前には、多くの市民や、障害当事者を招いた、オープンな試乗会を実施し、評価の機会を設けて、改良を重ねている。



ヒアリングの様子



バリアフリー体験会の様子

●車両のバリアフリー

【車椅子スペース】

車椅子スペースのある3号車の乗降口の有効幅を標準的な整備目標を上回る幅を確保することで、車椅子が乗降しやすいようにしている。また、車椅子スペースの底面の色について、当事者からの目に優しい色にしてほしいとの意見から識別しやすさにも配慮したえんじ色の配色としている。

【バリアフリースイール】

出入り口の戸の有効幅は、標準的な整備目標を上回る幅を確保するとともに、障害当事者の意見を踏まえて、①トイレペーパーホルダーを両サイドに設置、②ドアの開閉ボタンの大型化・増設等、ガイドラインの範囲にとどまらず、きめ細やかな改良を行っている。



車椅子スペース



バリアフリースイール

◎今後期待される取組み

新型車両導入から1年以上が経過し、利用者から様々な意見が寄せられていると思うが、これらの意見とともに、障害当事者を対象にした体験会などを企画し、意見集約を行っていただき、新型車両のハード・ソフトの両面からのバリアフリーアップに反映していただきたい。特に、平時のみならず非常時での情報提供を含めた取組を希望するとともに、駅舎利用と一体的になったバリアフリー化の進展も期待したい。

喜びの声

【コメント】

この度は、栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。弊社では、障がいのあるお客様やご高齢のお客様、妊娠中のお客様、お子様連れのお客様など、すべてのお客様にご満足いただけるよう、さまざまな取り組みを進めております。特急「やくも」につきましては、障がいのある方や地元の皆様からのご意見を車両設計に反映し、バリアフリーや多様なニーズに対応した車内設備を備えた車両として、2024年4月に運行を開始いたしました。

この度の受賞を励みに、引き続きバリアフリーに留意したハード面の整備を計画的に行っていくとともに、ソフト面においても分かりやすく親切なご案内、快適で便利な環境づくりを推進してまいります。

【連絡先】

西日本旅客鉄道株式会社 大阪市北区芝田2丁目4-24

【活動等の経緯】

- 2022年 11月 光市視力障害者協会とのバリアフリー設備説明会@光駅
- 2023年 1月 鳥取県立盲学校との駅の利用体験会及び啓発活動@鳥取駅
- 2023年 6月 広島市視覚障害者福祉協会と駅設備体験会
- 2024年 6月 社会福祉法人島根県社会福祉協議会と駅構内の歩行会及び停車列車への乗降体験会
- 2024年 3月 鳥取・島根両県14の障害者団体等を招き新型やくも試乗会



西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長兼執行役員
倉坂 昇治氏

関西エアポート株式会社

多様な当事者と空港職員による建設的対話から成し遂げた関西エアポートのバリアフリー化

講評

本事例は、約30年前にわが国で最も洗練された空港として開港された関西国際空港第1ターミナルのユニバーサルデザイン化の取り組みである。評価した特徴は、移動等円滑化評価会議近畿分科会の当事者メンバーと関西エアポート社員による一体的な活動内容とその成果である。具体的には、広範かつ多様な当事者が本当に参画したと感ずることができる「コミュニケーションの場」の試みが挙げられる。「カフェにいるような雰囲気話したい」という参加者の要望に対して、アロマを使用したり、様々な対話の場づくりを工夫するなど若手社員たちの日常的なアイデアが、参加した当事者の心理的負担をやわらげ、本事業を推進するための重要な信頼感を獲得している。このことがフォローアップ会議やモックアップの有益な活動に繋がり、他の類似事例と異なる整備の工夫や改善点を生み出した。本事例では、施設の用途や規模にかかわらず、当事者と事業者間の信頼関係の構築こそがバリアフリーやユニバーサルデザインの質と満足度を高めることを立証しており、本賞を受賞するにふさわしい好事例として高く評価する。

受賞者の取組み

<取組みの概要>

関西エアポートでは、障害当事者等と対話しやすい雰囲気作りによって距離を縮めることにより、障害者等の要望・課題を一緒に考え、誰でも使いやすい施設作りに反映した。また、車椅子利用者だけでなく、聴覚障害者の方等多様な意見を取り入れ工夫がなされている。

●多様な当事者との建設的対話

近畿運輸局移動等円滑化評価会議近畿分科会と連携したことにより、多様な障害当事者が参画する場として具体化した。その場として、障害当事者等から意見を聞くための検討会やフォローアップ会など合計27回もの打合せの場が持たれた。

●エレベーター緊急通報システム

緊急時に聴覚障害者が使用できる連絡手段として、エレベーター内にQRコードを貼付し、緊急時にはスタッフとチャットで連絡が取れるシステムを構築した。また、国際空港という観点から、当該システムの対応言語を当初の5言語から100以上の言語に対応ができるよう改修がされている。

●エレベーター扉幅

車椅子使用者のエレベーターの扉がカゴの端まで開くようにしてほしいという意見と、視覚障害者の操作ボタン位置が一般的な扉横の位置にないと分かりづらいという双方の意見を反映して、エレベーターカゴ内の右側には操作ボタンを残し、左側のみ扉がカゴの端まで開くようにしている。



エレベーター内のQRコード



エレベーターのカゴ

●トイレ

一般トイレのブースの奥行きを20cm拡大することにより手動車椅子が利用可能になるとのモックアップ検証結果を反映し、サイズの拡大と車椅子対応の手洗い場を追加し、手動車椅子で一般トイレが使用できるように整備した。

◎今後期待される取組み

本事業の記録を見るとすべての参加者の満足度がしっかりと伝わってくる。また、本事業では当事者参画をサポートした移動等円滑化評価会議近畿分科会の役割と責務も問われた。公民間の距離を事業者がどう認識していたかなど、今後の公共交通事業者の展開に役立つ知見が少なくない。是非今回の経験を関西エアポート内での共有と継承だけにとどまらせることなく、国内の他の空港関係者、空港以外の公共的施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインを推進する事業者、設計者、当事者に継承してほしい。

喜びの声

【コメント】

この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

関西エアポートでは2025年の大阪・関西万博に向け、国際線のキャパシティー拡大と旅客体験の向上を目的にT1リノベーション工事を実施いたしました。

その設計・施工の過程において障害当事者および専門家の皆様に参画いただいたバリアフリー検討会では、継続的な対話から新たな施策が立案され、実地検証によって改善を重ねて参りました。これらはバリアフリーやユニバーサルデザインの本質を探る基本的な取り組みであると考えます。参画いただいた検討会の皆様や工事関係者など工事を多方面からご支援いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

これからも世界中の方々が安心して過ごせる空港を目指してまいります。

【連絡先】

関西エアポート株式会社 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地

【活動等の経緯】

2016年 4月 関西国際空港(KIX)および大阪国際空港(ITAMI)の運営会社として事業を開始

2018年 4月 関西エアポート(株)の100%出資会社である関西エアポート神戸(株)が神戸空港(UKB)の運営事業を開始

2021年 2月 バリアフリー検討会開始(2025年1月まで27回開催)

2021年 6月 T1リノベーション工事着工

2025年 3月 Phase3運用開始(空港オペレーション機能完成)

2026年 夏頃 T1リノベーション工事完了

【Web-URL】 <https://www.kansai-airport.or.jp/>



関西エアポート株式会社

代表取締役社長 CEO
山 谷 佳 之 氏

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰に 推薦のあったすぐれた取組の紹介

「福祉教育と福祉車両の現場を紡ぐウエイズトヨタ社員の持続的な挑戦」

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会において、選考した結果、今回惜しくも受賞にならなかったものの中にも優れた取組がありましたので、その一部を紹介いたします。

紹介にあたっては、受賞のあった案件と同様、選考委員からの講評及び今後期待される取組を記載しております。選考委員一同、引き続きこのようなすばらしい取組が継続的に進み、今後さらなる進展があることを期待しております。

■取組紹介

- ・福祉教育と福祉車両の現場を紡ぐウエイズトヨタ社員の持続的な挑戦・・・・・・・・
ウエイズトヨタ神奈川株式会社

講 評

共生社会は、異なる背景や価値観を持つ人々が互いに理解し合い、協力して生活することをめざすもので、実現するためには、教育と地域コミュニティの取り組みが重要だ。ウエイズトヨタ神奈川株式会社は、車いす利用者をはじめ日常の移動に困難を抱えている人々に対して、最新の技術を活用した福祉車両や補助機器等を常設展示し試乗等の機会を提供するという本来業務に加えて、UDタクシー事業者やドライバーに向けて円滑な操作教習やマナー研修を実施し、さらには、市内の小学校において、体験と学びを組み合わせた事業者ならではの福祉体験授業を長期間継続して実施している。民間事業者としてハード・ソフト両面から、バリアフリーと共生社会推進への積極的、持続的な取組みに敬意を表したい。

ウエイズトヨタ神奈川株式会社の取組みの概要

●次世代を担う子どもたちへの福祉教育と意識啓発

「福祉の種を蒔く」という理念から一般社団法人神奈川県自動車販売店協会と共催で平成23年度から継続的に小学校4年生～6年生を対象に「福祉体験授業」を行い、福祉車両の乗車体験や、車椅子の自走、介助の体験を継続して行っている。(平成23年度～令和6年度受講者約17,000人201校で実施)福祉車両含め、障害を補完する様々な設備、取組があることへの学びや、何かできることがあるのではないかという心のバリアフリー教育の深化にもつながっている。

●ユニバーサルデザインタクシーの運転者育成支援

平成29年から神奈川県内のタクシー事業者に赴いて研修を実施しており、これまでに県内の約2割の事業者が受講している。研修では、近年、車椅子利用者の乗車拒否などが問題視されていることもあり、ユニバーサルドライバー研修、接客改善のマナー講習、ユニバーサルデザインタクシー車いすフォローアップ研修をとおして、当事者の視点を学びきっかけを創出し、心のバリアフリーの推進に寄与している。



◎今後期待される取組み

こうした取組みを一社のルーティンとして続けることに留まらず、ハートフルプラザが、そこに集う関連する同業者や様々な個人、コミュニティと交流し協力し合うことで、多様で豊かな環境を創出する共生社会のプラットフォームとして機能することで、ここを起点としたムーブメントが広く波及することを期待する。

【団体名】	ウエイズトヨタ神奈川株式会社
【連絡先】	ウエイズトヨタ神奈川株式会社 神奈川県横浜市中区山下町33
【活動等の経緯】	2007年1月 ウェルキャブ(福祉車両)展示場 創設 2011年4月 横浜市内の小学校への「福祉車両/車いす体験授業」開始 神奈川県自動車販売店協会との共催 2023年1月 ウエイズトヨタ神奈川を設立 (横浜トヨペット、トヨタカローラ神奈川、ネットトヨタ神奈川を経営統合) 2023年4月 「福祉車両/車いす体験授業」の対象小学校を川崎市まで拡大 2025年3月 「福祉車両/車いす体験授業」の受講者が累計約17,000人 201校(令和6年度迄)で実施

選考委員紹介

「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」 の今後の課題

秋山 哲男(中央大学研究開発機構)

第19回となる今年度の表彰においては、全国各地から12件のご推薦を頂きました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。全12件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）にわたる幅広い取組みをご推薦頂きました。個々の推薦案件を見ますと、関係する主体から見ると空港関連（3つ）、鉄道関連（2つ）、バス・自動車関連（2つ）、スポーツ施設関連（1つ）、バリアフリーに関わる活動（4つ）と多岐にわたっています。また、活動と施設整備の観点から見ると、活動が9つ、施設整備が3つ、また活動と施設にまたがるものが2つとバリアフリーがハード的な整備からソフト的な活動に重点が置かれています。これは、施設整備に合わせて当事者が参加して整備の質を向上する試みが行われていることや、教育などにも取り組んでいる点が特徴です。

今後、バリアフリー化推進功労者の賞は、以下の点が重点として考える必要があります。

○昨年と同様のデジタルとジェンダー主流化

第一は、急速にデジタル化社会（DX）が進行し、高齢者・障害者などが取り残されることを防がなければなりません。障害者・高齢者を含む多くの利用者の方々に有効な、情報（ICT）のアクセシビリティとユーザビリティ（使いやすさ）の確保です。特に情報化社会があらゆる分野で始まっています。次々に変化する情報のアクセスとユーザビリティ（使いやすさ）は喫緊の課題です。また、役割分担として、公的機関が共通性が高いデータの収集などを行うデータガバナンスに力を入れること、他方民間会社や個人がこのデータを用いてアプリやサービスを展開するなどの役割分担も考えられる。

第二は、ジェンダー主流化を巡る国際社会における動きを踏まえて、国際規範や基準、国際的な合意等を国内の施策に適切に反映させることです。ジェンダー主流化は、心のバリアフリーや社会モデルなどとも親和性があり、ユニバーサルデザインと連携しつつ普及を図ることが必要です。

これからの交通の調査・計画は女性と男性では移動の質が根本的に異なることを前提として取り組むことが不可欠です。例えば、女性は保育園や・スーパーを目的地とし、子連れなど複数の移動が多く、移動時間も不規則な時間帯などです。

○今年度の大臣賞と関連した課題

第三は、障害者の残された困りごとに取り組む姿勢

今年度の障害者のバリアフリーにおいて、「残された課題」に果敢に取り組む今回表彰した西日本旅客鉄道株式会社がその一例です。例えば、過去には特急車両は客席に車いすで行けずデッキにずっといたなどの問題がありました。こうした問題解決に果敢に取り組んだ例と考えられます。

第四は、ユニバーサルデザインの重要な考え方の一つに繰り返し改善の努力を払う「スパイラルアップ」

関西空港はレンゾー氏が設計し初期にバリアフリー空港設計に取り組んでいました。そして30年以上経て、今までのバリアフリーでは不十分であると考え、経営が関西エアポート株式会社に代わり、最新のバリアフリー設計を取り入れ、関西の障害当事者の参加で再度バリアフリー整備をしました。

第五は、教育や障害者の参画の重要性

佳作として「バリアフリー教育」に取り組んだウエインズトヨタ神奈川株式会社が小学生の教育を継続的に行っています。

●選考委員



秋山 哲男 委員
(中央大学 研究開発機構 教授)



新田 保次 委員
(大阪大学 名誉教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 名誉教授)



河野 康子 委員
(一般財団法人 日本消費者協会 理事)